

2016年冬季ボーナスアンケート調査（宮崎県内）

当研究所は、宮崎県内における消費動向あるいは生活実感などを探るため、ボーナスアンケート調査を実施している。今回、県内の給与所得者を対象にインターネットアンケートを活用した冬季ボーナス調査を実施し、結果をまとめた。

【調査結果の概要】

1. ボーナスは「支給される（75.6%）」が前年比4.1ポイント（以下、「P」）上昇した。増減見込みは「同じくらい（68.3%）」が最多で、前年並みを見込む回答が目立つ。
2. ボーナスの見込み額は「10万円以上30万円未満（39.0%）」が最多。
3. 使いみちは「貯蓄（70.5%）」が最多で、貯蓄の目的は「家計の補充（62.2%）」、貯蓄の方法は「流動性預貯金（59.8%）」が最も多い。
4. ボーナスでの購入予定品は「衣料品（56.4%）」に次いで「日用品のまとめ買い（27.8%）」が多く、買物予定先は「ショッピングセンター（49.6%）」が最多だった。県外での買物予定地は、九州5市（※）の中で「福岡市（42.3%）」が最も多い。
5. 今後の旅行・レジャーの予定先は、「九州内（71.3%）」が最も多い。
6. 生活状況は「変わらない（62.6%）」が最も多く、生活状況DIは「▲12.4」と前年比0.9P改善した。

※ 福岡市、北九州市、大分市、熊本市、鹿児島市の5市

調査の実施要領

調査時期：2016年11月15日（火）～11月20日（日）

調査対象：宮崎県内の給与所得者

調査方法：インターネットアンケート（マクロミル社）

回答者数：522名

回答者の属性（単位：人、%）

年代別	人数	構成比	世帯別	人数	構成比	性別	人数	構成比	職業	人数	構成比	
20歳代以下	83	15.9	独身	188	36.0	男性	294	56.3	会社員	453	86.8	
30歳代	132	25.3	既婚	子供有り	265	50.8	女性	228	43.7	公務員	69	13.2
40歳代	181	34.7		子供無し	69	13.2	合計	522	100.0	合計	522	100.0
50歳代以上	126	24.1	合計	522	100.0							
合計	522	100.0										

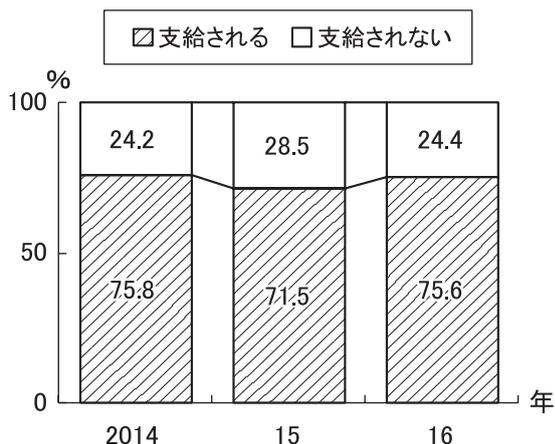
※四捨五入の関係で内訳の総和と合計は必ずしも一致しない。

1. ボーナス支給の有無と増減見込み

(1) 「支給される」が75.6%

今冬のボーナスは「支給される」が75.6%、「支給されない」が24.4%で、「支給される」が前年比4.1P上昇した(図1)。

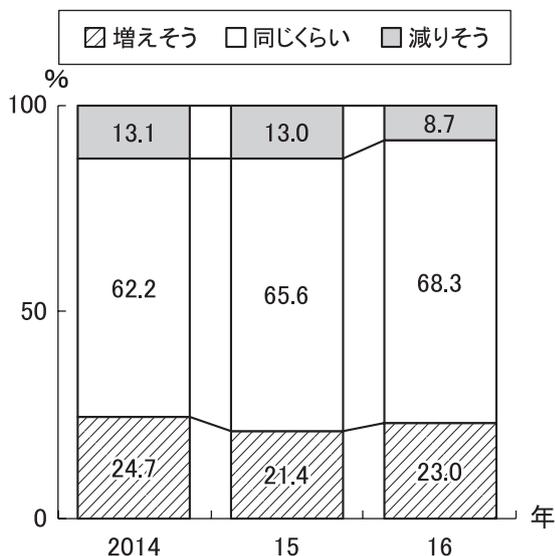
図1. 冬季ボーナス支給の有無



(2) 増減見込みは「同じくらい」が最多

ボーナスの増減見込みは、「同じくらい(68.3%、前年比+2.7P)」が最も多く、「増えそう(23.0%)」も前年より1.6P上昇するなど、やや改善傾向がみられた。一方、「減りそう(8.7%)」は同4.3P低下した(図2)。

図2. 冬季ボーナスの増減見込みの推移



2. ボーナスの見込み額

「10万円以上30万円未満」が最多

ボーナスの見込み額は、全体で「10万円～30万円未満(39.0%)」が最も多く、「30万円～50万円未満(23.3%)」「50万円以上70万円未満(13.8%)」と続いた(図3)。

会社員は、「10万円～30万円未満」が45.9%で前年比1.3P低下し、「30万円～50万円」「50万円～80万円」の割合は、前年よりそれぞれ上昇した(表1)。

図3. ボーナスの見込み額

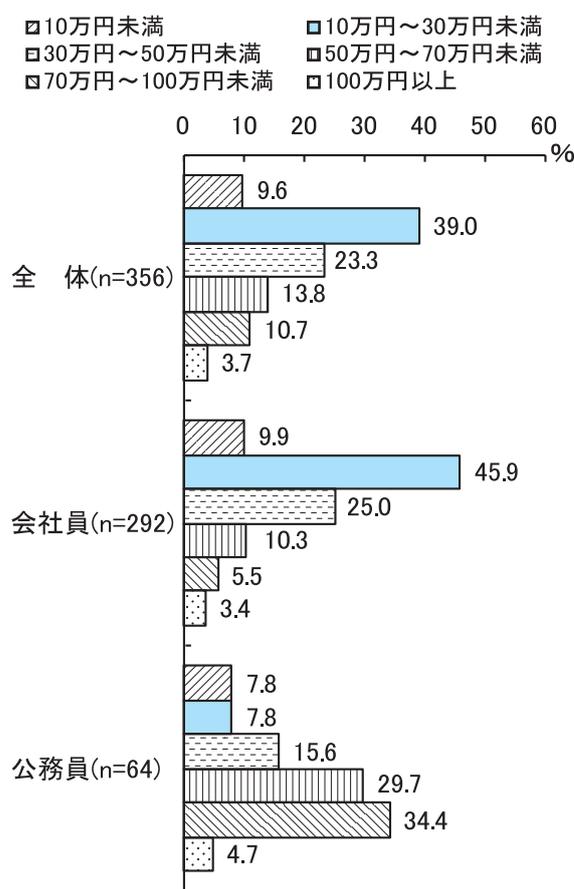


表1. 会社員の見込み額

(単位: %、P)

	10万円未満	10万円～30万円未満	30万円～50万円未満	50万円～80万円未満	80万円～100万円未満	100万円以上
2016年	9.9	45.9	25.0	10.3	5.5	3.4
2015年	12.1	47.2	23.8	7.2	5.7	4.2
前年比	▲2.2	▲1.3	1.2	3.1	▲0.2	▲0.8

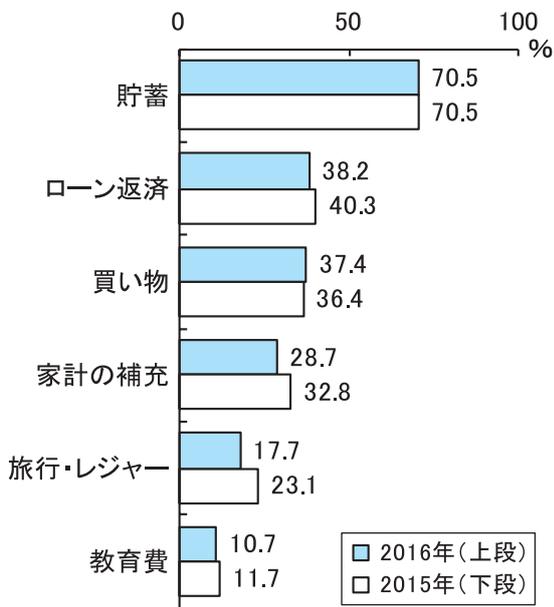
3. ボーナスの使いみち(複数回答)

「貯蓄」が最多

ボーナスの使いみちは「貯蓄(70.5%)」が前年と同値で最も多く、以下「ローン返済(38.2%)」「買い物(37.4%)」「家計の補充(28.7%)」と続いた(図4)。

順位に変動は無く、「家計の補充(前年比▲4.1P)」「旅行・レジャー(同▲5.4P)」を除き、それぞれ前年並みの結果となった。

図4. ボーナスの使いみち(複数回答)



(1) 「貯蓄」

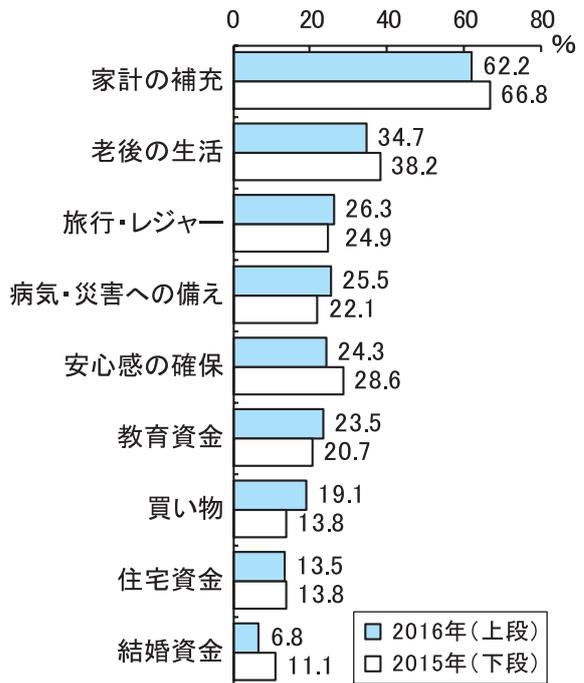
①貯蓄の目的(複数回答)

「家計の補充」が依然として最多

貯蓄の主な目的は「家計の補充(62.2%)」「老後の生活(34.7%)」「旅行・レジャー(26.3%)」となった(図5)。

「老後の生活」は前年より低下し、「旅行・レジャー」「病気・災害への備え」はそれぞれ上昇した。また、前年3位の「安心感の確保」は4.3P低下し、5位に順位を下げた。

図5. 貯蓄の目的(複数回答)

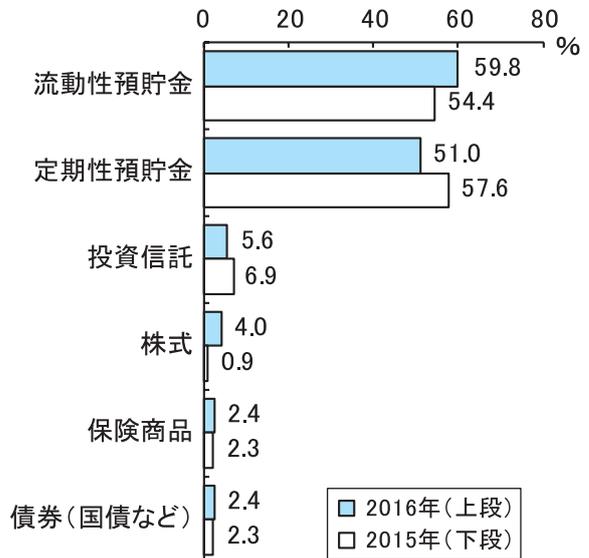


②貯蓄の方法(複数回答)

「定期性預貯金」が最多

貯蓄の方法は、「流動性預貯金(59.8%)」「定期性預貯金(51.0%)」が多かった(図6)。1979年に開始した本調査は、当設問を加えた2003年夏季調査以降「定期性預貯金」が1位で推移していたが、夏冬を通じ「流動性預貯金」が初めて1位となった。

図6. 貯蓄の方法(複数回答)



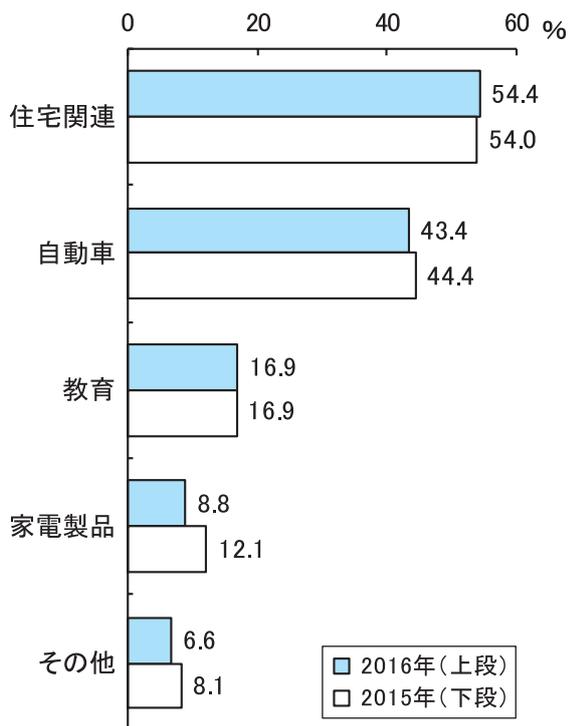
(2) 「ローン返済」(複数回答)

「住宅関連」「自動車」が二大項目

ローン返済では「住宅関連 (54.4%)」と「自動車 (43.4%)」の回答が上位を占めた。(図7)

「家電製品 (前年比▲3.3 P)」を除き、前年並みの回答となった。

図7. ローン返済予定の内容 (複数回答)



(3) 「買い物」

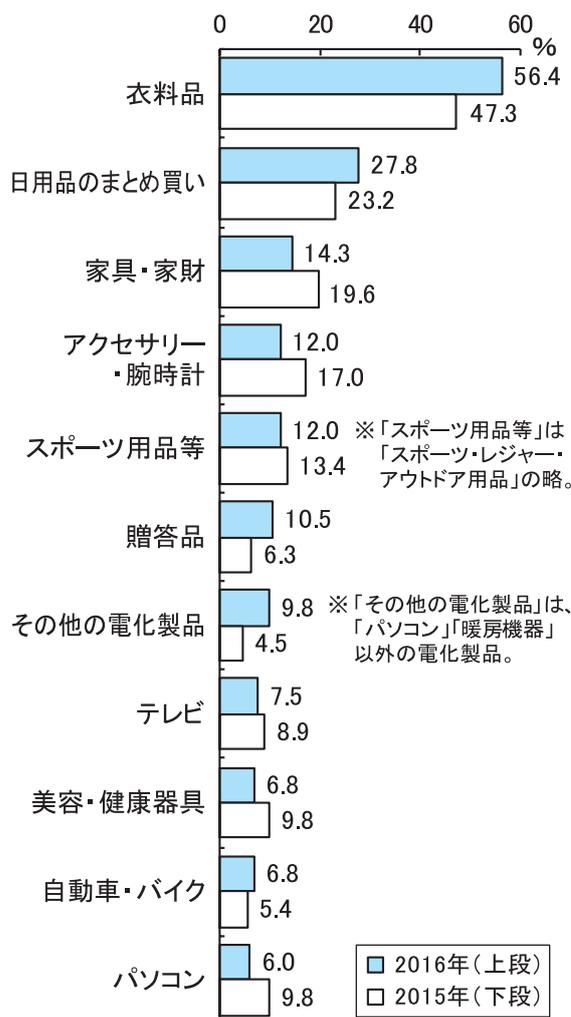
①購入予定品 (複数回答)

「衣料品」が最多

購入予定品は「衣料品 (56.4%)」が最も多く、以下「日用品のまとめ買い (27.8%)」「家具・家財 (14.3%)」と続いた(図8)。

「衣料品 (前年比+9.1 P)」「日用品のまとめ買い (同+4.6 P)」は前年より上昇し、「家具・家財 (同▲5.3 P)」「アクセサリ・腕時計 (同▲5.0 P)」は低下した。

図8. 購入予定品 (複数回答)



②買物予定先の店舗形態 (複数回答)

ショッピングセンターがトップ

買物予定先の店舗形態では「ショッピングセンター (大型店)(SC)(49.6%)」が最多で、以下、「通販・ネット販売 (40.6%)」「量販店 (38.3%)」となった(次頁表2)。

居住地別にみると、都城市で「通販・ネット通販 (57.9%)」が前年比+29.3 Pと大幅に上昇した一方、宮崎市は同18.9 P低下した。

「量販店」は、3市で前年比上昇または横ばいとなったが、「専門店」の低下幅が目立って大きい。

表2. 買物予定先の店舗形態（複数回答）

(単位：%)

買物先 居住地	SC (大型店)	通販・ ネット販売	デパート・ 百貨店	量販店	専門店
全 体	49.6	40.6	34.6	38.3	21.8
	52.7	48.2	37.5	34.8	30.4
宮崎市	48.3	36.2	32.8	41.4	19.0
	57.1	55.1	40.8	36.7	30.6
都城市	47.4	57.9	36.8	47.4	15.8
	35.7	28.6	21.4	42.9	35.7
延岡市	56.3	43.8	50.0	25.0	25.0
	50.0	50.0	50.0	25.0	37.5

回答者数 133 人

※上段:2016年 下段:2015年

③買物予定地（複数回答）

「宮崎地区（注1）」「都城地区（注2）」は、いずれも地元を買物予定地とする割合が最も高い（表3）。

「延岡地区（注3）」「小林地区（注5）」は地元と宮崎市を買物予定地とする割合が最も高い。前年比では、「都城地区」での「宮崎市(+43.1P)」の上昇が目立った。

「県外」は「延岡地区（40.0%）」が前年同様最も多く、「都城地区（28.5%）」は前年より16.1P上昇した。

表3. 買物予定地（複数回答、居住地別）

(単位：%)

買物地 居住地	宮崎市	都城市	延岡市	日南市	小林市	県外
宮崎地区（注1）	94.0	-	-	-	-	11.9
	96.2	1.9	1.9	1.9	1.9	11.5
都城地区（注2）	61.9	85.7	-	-	-	28.6
	18.8	81.3	-	-	-	12.5
延岡地区（注3）	53.3	-	53.3	-	-	40.0
	36.8	-	52.6	-	-	42.1
日南地区（注4）	-	-	-	-	-	-
	66.7	33.3	-	66.7	-	66.7
小林地区（注5）	66.7	33.3	-	-	66.7	-
	85.7	57.1	-	-	42.9	-

回答者数 121 人

※上段:2016年 下段:2015年

- (注1) 宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡
- (注2) 都城市、北諸県郡
- (注3) 延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡
- (注4) 日南市、串間市（今回の調査では回答無し）
- (注5) 小林市、えびの市、西諸県郡

④県外での買物予定地（複数回答）

「鹿児島市」が前年比上昇

県外での買物予定地は、「福岡市（42.3%）」の割合が最も高く、以下「鹿児島市（30.8%）」「大分市（26.9%）」「熊本市（23.1%）」と続き、今回選択肢に加えた「北九州市」も3.8%あった（表4）。前年比は、鹿児島市が8.6P上昇した一方、福岡市、大分市、熊本市はそれぞれ低下した。

表4. 県外での買物予定地（複数回答）（単位：%）

年	福岡市	鹿児島市	大分市	熊本市	北九州市
2016年	42.3	30.8	26.9	23.1	3.8
2015年	55.6	22.2	44.4	27.8	-

回答者数 26 人

4. 最近の県外での買物動向

(1) 買物頻度

最近1年間で県外主要5市へ買物に行った頻度は、全ての市で「1回」の回答が最多であった（表5）。前年比は、今回選択肢に加えた北九州市を除き、全ての回答がそれぞれ前年割れとなり、買い物頻度の減少がみられた。

表5. 県外での買物頻度（複数回答）（単位：%）

頻度	福岡市	北九州市	熊本市	鹿児島市	大分市
1回	21.8	5.0	11.7	14.9	18.0
	47.4	-	55.8	50.0	49.4
2~4回	14.2	1.9	7.1	14.6	10.0
	37.7	-	32.6	35.6	34.6
5~9回	3.1	0.2	0.6	3.6	3.8
	8.8	-	3.6	6.1	9.3
10回以上	1.9	1.3	2.1	2.5	1.5
	6.1	-	8.0	8.3	6.8

回答者数 214 人

※上段:2016年 下段:2015年

(2) 交通手段

県外主要5市への交通手段では、全ての市で「乗用車」が最も多く、中でも「大分市」へは94.8%と、特に多い（次頁表6）。

表6. 県外主要5市への交通手段 (単位: %)

交通手段	福岡市	北九州市	大分市	熊本市	鹿児島市
乗用車	56.5	84.1	94.8	90.2	87.1
	49.3	-	97.5	92.8	88.3
高速バス	20.1	4.5	1.7	6.3	2.7
	31.3	-	1.2	7.2	3.9
JR	4.2	6.8	1.1	1.8	9.1
	7.0	-	1.2	-	7.8
飛行機	13.6	2.3	-	-	-
	12.3	-	-	-	-
B&S(※)	3.7	-	-	-	-
	-	-	-	-	-

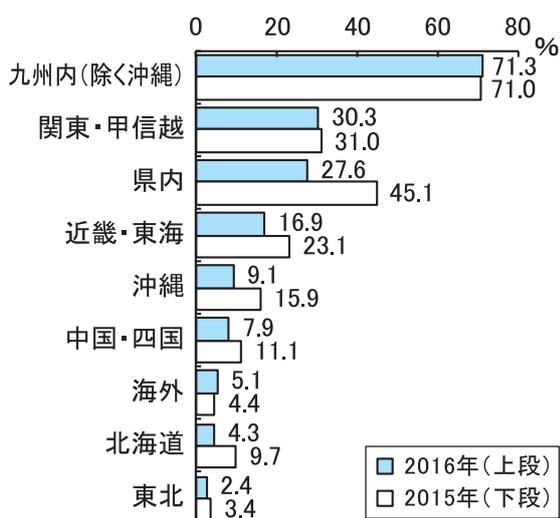
回答者数 214人 ※上段:2016年 下段:2015年
 ※「B&Sみやざき」の略称。Bus & Shinkansenの頭文字で、博多駅～新八代駅(熊本)～宮崎駅間を新幹線と高速バスで運行する。

5. 今後の旅行・レジャー先(複数回答) 「九州内」が最多

今後の旅行・レジャー先は、「九州内(71.3%)」が最多で、以下「関東・甲信越(30.3%)」「県内(27.6%)」と続いた(図9)。「県内」は前年比17.5P低下し、「九州ふっこう割(※)」が九州内の旅行を後押ししたとも推測される。

※熊本地震からの復興を目的に、九州内を割安に旅行するためのプレミアム旅行・宿泊券

図9. 旅行・レジャーの予定先(複数回答)



6. 現在の生活状況

全体では「変わらない」が約6割

現在の生活状況は、「変わらない」が全体の62.6%を占めた(表7)。「悪くな

った」割合は前年比1.3P低下し、生活状況DI(注)は「▲12.4」と、同0.9P改善した(図10)。

生活状況別では、衣生活を除いた項目で、DIの悪化幅がわずかに縮小しているものの、依然マイナスの状況にある。

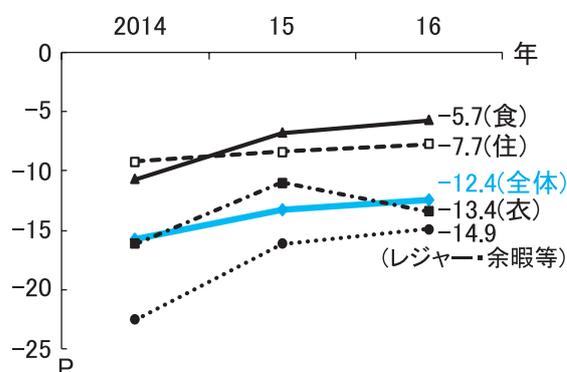
(注) DI = 「良くなった」割合 - 「悪くなった」割合

表7. 現在の生活状況 (単位: %)

生活状況	良くなった	変わらない	悪くなった	DI
全体	12.5	62.6	24.9	▲12.4
	12.9	61.0	26.2	▲13.3
衣生活	8.4	69.7	21.8	▲13.4
	9.9	69.2	20.9	▲11.0
食生活	12.5	69.3	18.2	▲5.7
	12.3	68.6	19.1	▲6.8
住生活	8.6	75.1	16.3	▲7.7
	8.9	73.8	17.3	▲8.4
レジャー・余暇等	12.1	60.9	27.0	▲14.9
	12.7	58.6	28.8	▲16.1

※上段:2016年 下段:2015年

図10. 生活状況DIの推移



今回の調査では、前年並みのボーナス支給額が予想される中、家計の補充を目的に、流動性預貯金へ預けるほか、衣料品や日用品のまとめ買いを予定する回答が依然多い。一方、貯蓄の目的では、旅行・レジャーの回答も多く、今後の旅行・レジャー先に「九州ふっこう割」の影響と考えられる特徴も現れた。今後ともレジャー・余暇等を含めた生活状況DIを注視する必要がある。(勝池)